

■ 集会日程 ■

▶ 7月29日(土)

- 12:00~13:00 全体集会受付
〈高槻市立生涯学習センター(ホール)〉
- 13:00~17:00 全体集会Ⅰ
〈高槻市立生涯学習センター(ホール)〉
- ◆実行委員会あいさつ
 - ◆主催報告・大阪・阪神
 - ◆アトラクション(北大阪朝鮮初中級学校)
 - ◆記念講演「日本の戦争責任」
戸塚悦朗さん(弁護士)

- 18:30~20:30 分科会 〈高槻市立生涯学習センターほか〉
- 21:00~ 交流会 〈会場未定〉

▶ 7月30日(日)

- 9:00~ 9:30 受付 〈高槻市立現代劇場〉
- 9:30~12:15 全体集会Ⅱ 〈高槻市立現代劇場〉
- ◆パネルディスカッションへの問題提起
田中 宏さん(一ツ橋大学教授)
 - ◆アトラクション(高槻むくげの会)
 - ◆パネルディスカッション
 - ◆アピール
 - ◆次回開催地あいさつ

- 13:30~ タチソ(高槻地下倉庫)フィールドワーク
- ◆13時30分出発コース
 - ◆14時30分出発コース
- ※詳しくは、別欄の案内をご覧ください。

■ 集会へのご賛同をお願いします ■

この集会は全国の皆さんの協力と賛同資金で運営されています。ぜひご賛同ください。賛同団体・個人は「B5フリーアピール」で紹介させていただきます。

〈賛同金〉団体6,000円 個人2,000円

■ 分科会 ■

▶ 分科会

- ①歴史学習 講師：中塚 明さん(奈良女子大学名誉教授)
……「韓国併合」はいかにしてなされたか
- ②教育課題
……歴史教育の実践やその注意点等を考える
- ③「従軍慰安婦」問題
……「従軍慰安婦」問題を考える
- ④調査・研究・保存
……戦跡保存等の新たな方向性を考える
- ⑤補償請求状況
……各地の戦後補償裁判等の状況を発表、交流する
- ⑥強制連行・強制労働と在日
……在日の被差別の現状を認識し、これからの在日と日本人との共生を考える
- ⑦国際関係の中の日本の戦争責任～記念講演をうけて～
……記念講演をうけて、歴史認識の再検討と未解決な問題を整理、検討する

■ パネルディスカッション ■

前日の分科会での論議をふまえて、参加者と意見交流を行う。

パネラー(予定)：田中宏さん、戸塚悦朗さん、中塚明さん



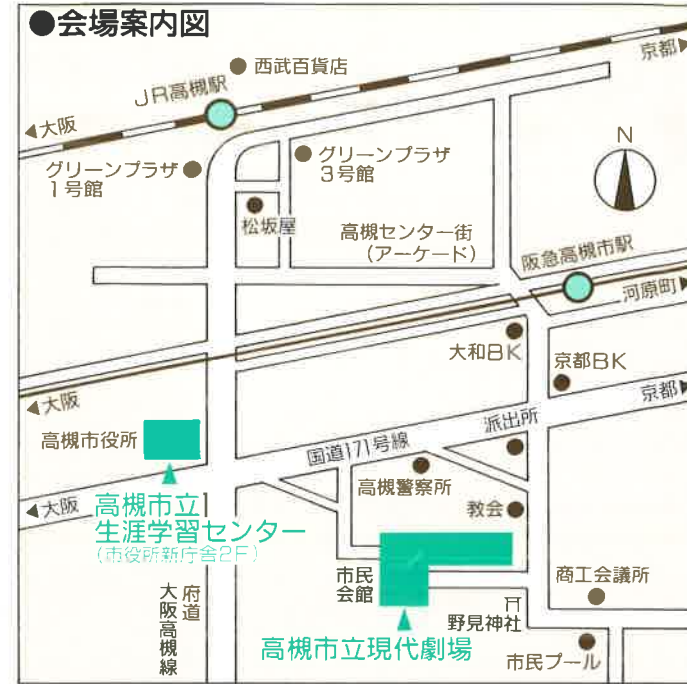
【参加費用】

- 参加費：3,500円(資料代含む、学生は2,000円)
- 宿泊：別表参照

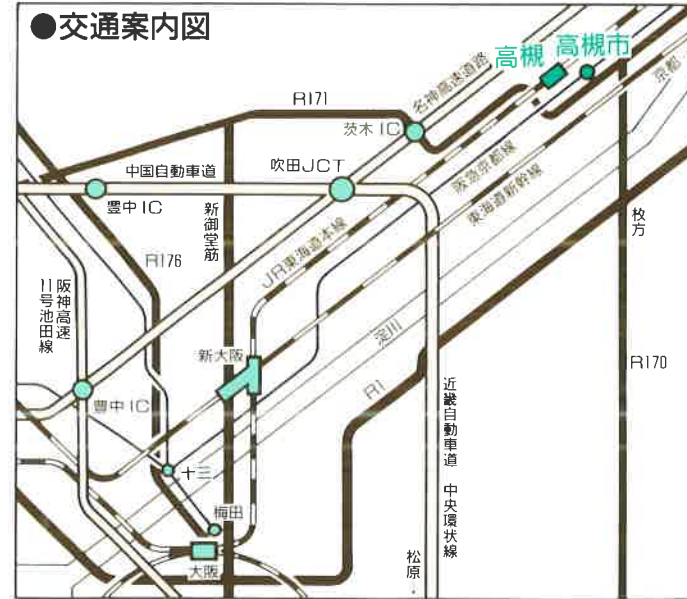
【申し込み方法】

この案内に同封されている郵便振替(口座番号：00920-0-120624、「第6回交流集会大阪」)で、6月16日までにお申し込みください。一人一枚の郵便振替でお願いします。

なお、領収書は郵送せずに集会当日、参加証とともにお渡しします。



- 交通 《生涯学習センター》 現代劇場
- 阪急高槻市駅下車 徒歩約5分 阪急高槻市駅下車 徒歩約8分
- JR高槻駅下車 徒歩約5分 JR高槻駅下車 徒歩約15分



■ 実行委員会連絡先 ■

- 〒569 大阪府高槻市城内町1-35 高槻むくげの会内
- ☎0726-71-1239 金 博明(キム パンミョン)
- ☎075-962-7858 薬師寺小夜子

第6回

朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える 全国交流集会 in 大阪



1995.7.29~30

■ 主催 ■

第6回
朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える
全国交流集会 大阪実行委員会



●賛同団体紹介
賛同していただいた個人・団体の活動や、アピールを紹介する資料を作り、当日配布します。アピール名、連絡先、活動紹介、刊行物などをB5縦1枚に記入して事務局までお送り下さい。そのま印刷します。締切りは6月末日必着です。

●本の販売について

- 実行委員会では本の販売はいっさい引き受けません。
- 委託販売は検索者が行います。検索者への問合せは(☎/FAX) 03-3352-3557
- 東京都新宿区新宿2-4-9(営業時間 11時~19時)
- ミニコミストを作成しますので、用紙に紹介文等を記入のうえ検索者までお送りください。
- 貴会のメノ/ーによる出版販売はできませんが、必ず事前に実行委員会へご連絡ください。
- 会場での販売場所の決定は受付順になります。
- 事前に物品を送付する場合は7月28日当日到着のものしか受付られません。送付先は下記へ。
- (住所)〒569 大阪府高槻市城西町4-6 学校教職員厚生会館内 高槻市教職員組合気付
- 「第6回交流集会大阪 実行委員会」



●フテール・フテール案内

- フテールの保存状況等の関係上、先着100名(各コース50名)に限らせていただきます。
- 懐中電灯を持参のうえ、動きやすい服装(スカーフ・ハイヒール等はご遠慮ください)でお越しください。
- 〈生玉公園車地下壕〉については、交渉中です。
- フテール・フテール参加の方は、1/2代等別途徴収になります。

●戸塚悦朗プロフィール



- 1970年 立教大学法学部卒業
- 1973年 第二東京弁護士会登録
- 1988年~1991年 ロンドン大学客員研究員
- 1992年2月~ ロンドンにて、国際人権法専門研究活動

1992年2月以降、IED(国際教育開発機構)代表として、1993年以降はIFOR(国際和解団体)代表として、国連人権委員会、国連小委員会・現代奴隷制委員会など、旧日本帝国軍による従軍慰安婦問題、強制労働問題に取り組み。著書として「精神医療と人権」「日本収容所列島」(共編・共著、亜紀書房)他多数。1990年1月から現在に至るまで、田中「国際人権レポート」(週間法律新聞)を執筆継続中。

よびかけ

今年は朝鮮・台湾への植民地支配、中国およびアジア・太平洋地域への侵略戦争を行った帝国主義日本が敗れてから50年を迎えようとしています。

半世紀という永い歳月の経過にもかかわらず、この国は未だ侵略戦争への真の謝罪・反省と戦争責任・賠償問題をほとんど手つかずのままに放置し、朝鮮半島の北半分――朝鮮民主主義人民共和国とは国交さえ結ばずにきました。そればかりか、侵略戦争への反省としての非武装の憲法をもちながら、今は世界第４位の軍事予算をもち、ＰＫＯに名を借りて海外への自衛隊派遣をも行う逆行の道を歩もうとしています。奴隷的屈辱を強いられ命さえ奪われたアジアの人々に対して、誠に恥すべきことです。

私たちは90年夏から強制連行・強制労働に関する「全国交流集会」を毎年開催し、身近な地域の歴史から侵略戦争の事実・実態を知り、伝える努力を続けています。私たちの活動は、歴史の闇に葬り去られた部分を明るみに出す上で一定の成果を上げてきました。こうした運動や、アジアの人々の身を切る訴えは、ほおかむりをつづけようとする政府に一定の対応を取らざるを得ないところまで追いつめてきました。しかし、政府の行動は今なおごまかしの域を出ていません。私たちの運動の更なる強化が求められています。

さて、第６回の全国交流集会は大阪の地において7月29～30日に開かれることとなりました。在日韓国・朝鮮人が最も多数生活をする大阪で開かれるこの集会は、戦争責任・賠償問題の解決を世論と政府に迫る上で重要な意義をもっています。過去を水に流そうとするこの国の傾向に対し、私たちは戦後処理問題の誠実な解決の上に立ってアジア諸国と真の友好関係を樹立することを強く訴えます。さらに、在日の朝鮮・韓国人、中国人が今なお政治的にも、人権においても差別を受けている実態を、戦後処理問題とのつながりにおいて、より厳しく見つめ解決を問わねばなりません。

戦後50年に開かれる第６回全国集会が、一つの明確な戦争責任と賠償問題についての解決を提起し、行動する場として成功するために、一人でも多くの方の参加を呼びかけます。ぜひ大阪においでください。みんなの思いを持ち寄ってください。

1995年 5月

第6回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会実行委員会

Appeal

We are approaching the 50th year since the defeat of Japan, an imperial state that colonized Taiwan and Korea and invaded China and the Asian pacific region.

Despite moving on 50 long years, Japan has all but layed aside the idea of honestly apoligising for and reflecting upon its military aggression and problems such as responsibilty and compensation for the war. In fact, Japan has even failed to restore diplomatic relations with the Democratic People’s Republic of Korea; moreover, at the same time, whilst having a non-military constitution, it saunters down the opposite political road by having the fourth largest military budget in the world and a self-defense force that it dispatches overseas under the borrowed titled of the PKO. Japan ought to be ashamed considering the people of Asia that were compelled in to humiliating slavery and death by it.

Every year since the summer of 1990, we have been holding a “Nationwide Interaction Conference” concerned with forced transportation and forced labour in an effort to inform people about the facts and realities of Japan’s aggressive war from a local history viewpoint. We are working to produce definite results from certain sections of our buried history that are being brought to light. We have hounded the government to the very point where they should have to give a definite response to the demands made by Asian victims that up to now have been ignored. Nevertheless, the government remains in a realm of sophistry, so we must be determined to strengthen our actions.

The 6th Nationwide Interaction Conference is to be held on the 29th and 30th of July. This conference will play a significant role in mounting pressure on the government and public opinion with regard to resolving the issues of war responsibility and compensation, as Osaka is a city with many residents Korean. In addition to clearly solving postwar conduct problems that Japan has tended to sweep under the carpet in the past, we are also strongly committed to the establishment of true friendship with Asian countries. Furthermore, residents Korean and Chinese in Japan are still discriminated against politically and in the area of human rights. By linking this discrimination to postwar conduct problems, we are firmly intent on seeking just solutions.

At the 6th conference to be held 50 years after the war, we will propose solutions to bring about the clear acceptance of responsibility for the war and compensation problems. We are asking for your participation to help make this a success. And please bring all your views with you.

May 1995

The Executive Committee for the 6th Nationwide Interaction Conference Considering Forced Transportion and Forced Labour of Korean and Chinese.

呼吁

今年是日本帝国主义对朝鲜、台湾的殖民统治的破灭，对中国、亚洲以及太平洋地区的侵略战争失败的第50个年头。

尽管半个世纪漫长的岁月已经过去了，但日本――这个国家至今未作出深刻的认罪和反省，对战争的责任以及赔偿问题也几乎放任搁置，与朝鲜半岛的北部――朝鲜民主主义人民共和国尚未缔结外交关系。此外，作为其对战争的反省，即日本宪法规定，日本放弃武力。然而其军事预算居世界第４位，又借非武装维持和平为名（PKO），向海外派遣自卫队，沿着逆行的道路越走越远。对于曾受尽奴役般的屈辱和被夺去了性命的亚洲人们来说，这实在是可耻的事情。

我们从90年夏季开始，每年召开关于朝鲜人、中国人被强制押送和强迫劳动的《全国交流集会》，努力宣传、使人们从了解身边地域的历史，到知道战争的事实。我们的活动，使一些被篡改的历史事实被重新揭开，并取得了一定的成果。这一系列的运动，以及亚洲受战争迫害的人们的亲身控诉，迫使日本政府不得不作出一定的姿态，举措。然而政府的作为至今仍限于自欺欺人和蒙混过关，因此，我们更需要进一步强化我们的运动。

第6届“全国交流集会”将定于7月29日至30日在大阪召开。在日韩国人、朝鲜人居住最多的大阪召开这样的集会，在造就舆论，促使日本政府解决战争责任及赔偿问题上具有重大意义。对于日本政府的视过去历史如流水、或轻描淡写的倾向，我们强烈呼吁在真诚地解决好战后处理问题的基础上，同亚洲各国建立起真正的友好关系。与此同时，我们要求日本政府应正视在日朝鲜人、韩国人及中国人的政治上、人权上所遭受到的差别，并切实加以解决。

为了使在战后第50年里所召开的第6届“全国集会”成为明确战争责任，解决赔偿问题的行动的大会，成功的大会，我们呼吁更多的人们前来大阪，带着大家的意愿，集思广议。

1995年 5月

第6届朝鲜人、中国人被强制押送和强迫劳动的考虑的全国交流集会 实行委员会

호 소 문

올해는 제국주의 일본이 조선과 대만에 대한 식민지 지배, 중국, 아세아・태평양지역에 대한 침략전쟁을 일으켜 패전한지 50년이 되는 해입니다.

반세기란 기나긴 세월이 흘러갔으나 이 나라 일본은 아직도 침략전쟁을 일삼은데 대한 진지한 사죄・반성과 전쟁책임・배상문제에 대해서 거의 착수하지 않는채 방치하고 있으며 조선반도의 북반부―조선민주주의인민공화국과의 국교관계마저 기피하고 있는 것입니다.

뿐만아니라 침략전쟁의 반성을 통하여 만들어진 비무장헌법이 있음에도 불구하고 현재 세계제4위를 차지하는 군사예산을 가지고 PKO의 이름으로 해외에 자위대 파견까지 강행하는 역행길을 걷고있습니다. 이는 노예살이굴욕을 당하고 목숨마저 빼앗겼던 아세아사람들의 립장에서 볼 때 진정 부끄러운 사실인 것입니다.

우리는 90년 여름부터 強制連行・強制労働에 관한「전국교류집회」를 매해 열고 가까운 지역의 歷史에서 침략전쟁의 사실・실태를 똑똑히 인식하고 전해가는 노력을 계속하고있습니다.

우리의 활동은 歷史의 어둠속에 매장된 사실들을 밝히는데서 일정한 성과를 거두었습니다. 이러한 운동과 아세아사람들의 뼈에 사무친 부르짖음이 아닌보살식으로 대하던 정부로 하여금 이제는 일정한 대응을 하는데까지 전진을 보게 되었습니다.

그러나 정부의 행동은 의연히 기만의 領域에서 벗어나지 못하고있습니다.

이번에 제6차전국교류집회가 오사카에서 7월29일～30일에 걸쳐 거행하게 되었습니다. 제일한국・조선인이 가장 많이 모여사는 오사카에서 열리게 되는 이 집회는 전쟁책임・배상문제의 해결을 세론과 정부에 강하게 요구하는데서 중요한 의의를 도모할것입니다. 과거를 깨끗이 잊고 회피하려는 이 나라의 경향을 두고 우리는 일본이 전후처리문제의 성실한 해결선상에서 아세아 여러 나라들과의 진정한 우호관계를 수립할것을 강력히 요구합니다. 또한 제일조선・한국인・중국인들이 여전히 정치적으로나 인권면에서 차별을 당하고있는 실태를 전후처리문제와 관련시켜 보다 엄격한 눈으로 살펴보면 그 완전한 해결을 추구해나갈것입니다. 집회가 하나의 명확한 전쟁책임과 배상문제의 해결을 제기하고 행동하는 마당으로써 성사시키기 위하여 한사람이라도 더 많은 분들의 참가를 호소하는바 입니다. 꼭 오사카에 오시기를 바랍니다. 여러분들의 뜨거운 마음을 기대합니다.

1995년5월

제6차조선인・중국인強制連行・強制労働을 생각하는 전국교류집회 실행위원회